

泊1・2号機

「再稼働」より「慎重に」

知事、北電との連携課題

高橋はるみ知事は17日の会見で、北海道電力泊原子力発電所1、2号機の再稼働について3号機の営業運転移行よりも慎重な対応が必要との認識を示した。原発再稼働の判断では、福島第1原発事故に地震が影響したかどうかについて国の見解を待つ考えを表明した。

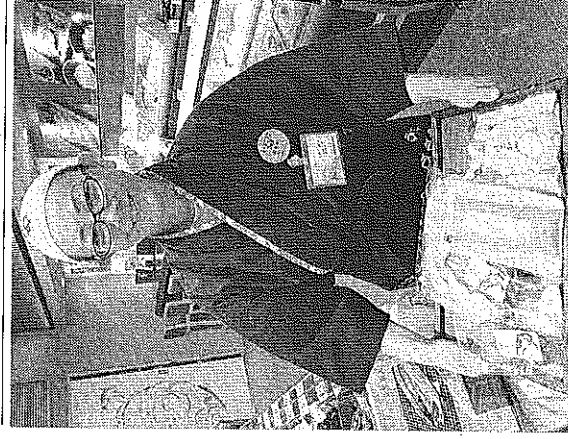
泊1号機は停止中で、泊2号機は8月下旬に停止し定期検査に入る。1

今後、地元自治体の意見集約方法など新たな枠組みづくりを構築する。泊3号機問題では国や北電との意思疎通が不十分だった。再稼働の判断時期までに、連携のあり方など見直し課題は多い。

高橋知事は「1、2号機の再稼働への対応は慎重にやらないといけない」と述べ、泊3号機の対応よりも丁寧に検討する方針だ。現時点では再稼働の是非は持つべきではないと述べ、国の見解を待つ考えを表明した。

お盆の高速利用、道内2割減

東日本高速道路(NEXCO)は、お盆期間の高速道路の利用状況を発表し、利用台数は前年比で約2割減った。前年は高速道路の利用が盛況で、お盆期間には利用台数が前年比で約2割増えた。今年はお盆期間の利用が低調で、お盆期間の利用台数は前年比で約2割減った。前年は高速道路の利用が盛況で、お盆期間には利用台数が前年比で約2割増えた。今年はお盆期間の利用が低調で、お盆期間の利用台数は前年比で約2割減った。

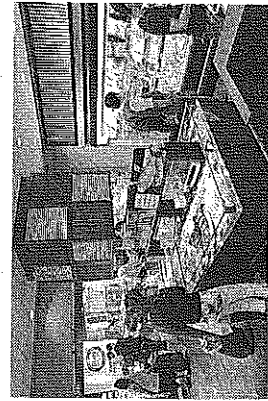


新千歳空港 新スポット

鮭乃丸電

道産のサケにこだわった札幌・円山地区の老舗海産物店「鮭乃丸電」。新千歳空港店でも、売れ筋は名物の「さしな鮭(ささ)」(1

旬のサケ、本州に届け



99.5円)だ。夏は時不知(ときしらず)、秋は秋サケを使う。その時々旬の食材を厳選する。塩サケ、塩さんま、塩にしんなど北海道を代表する魚を集めた「夏の牛物セット」(3990円)はお土産として人気が高い。

空港に出店したのは道内だけでなく、本州の消費者にも知ってもらった。円山の本店とは違い、初めて訪れる人が多いことから、店内で気軽にサケ料理を食べられる「1+1」も設置した。サケの奉書は(950円)などがメニューに並ぶ。

同店の特徴は、新鮮なサケをすべて手作りで加工している点だ。中村良子店長は「一切添加物ない味を全国の人に知ってもらいたい」としている。

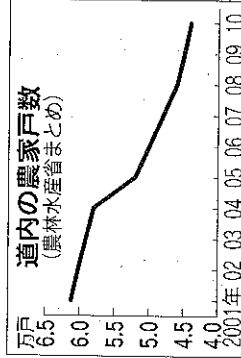
道内5社、独国際展示会に出展

農機の海外販路を開拓

東洋農機(帯広市)、エフ・イー(旭川市)など道内の農業機械メーカー5社は、海外販路の開拓に本格的に乗り出す。ドイツで今秋開かれる国際展示会に畑作・野菜用機械を共同出展し、高精度で小回りが利くなど道内で培った技術を売り込む。高齢化や後継者不足により道内の農家戸数が減少するなか、ブランドの知名度を上げることで、欧州やアジア進出の足掛かりにする。



東洋農機は除草機を国際展示会に出展する



高精度・小回りに強み 知名度向上へ

サンエイ工業(斜里町)、オサタ農機(富良野市)、アトム農機(美瑛町)などの5社は、11月13〜19日に独ハノーバーで開かれる国際展示会「アグリテックニカ」に共同出展する。北海道農業機械工業会によると

出展する道内メーカー	共同出展する道内メーカー
サンエイ工業	ジャガガイモの収穫機
オサタ農機	自走式ニンジン収穫機
アトム農機	油圧バケット
エフ・イー	ジャガガイモなど皮むき機
東洋農機	株と株の間の除草機

2年に1度開催され、農機メーカーなど千社を超える企業が新製品、先端技術を展示。期間中には欧州をはじめインドやブラジルなど世界各地から農業関係者が34万〜35万人来場するとい

5社は、いずれも畑作が盛んな地帯にある企業。精度が高く、小回りが利くなどの特徴を持つ農機を「ジャパン・パビリオン」に展示する。サンエイ工業はジャガイモ収穫用の小型機械、オサタ農機は自走式のニンジン収穫機、またアトム農機は収穫物を水平に積んで持ち上げられる油圧バケットをそれぞれ出展する。価格は70万円程度から1千万円を超える製品もある。

また国際展示会への出展で、それぞれの農機メーカーのブランドを露出させるほか、欧州の農機市場を調査し、販路開拓の可能性を探る。さらに市場進出に欠かせない販売拠点、製品のメンテナンス態勢をどう築くかも併せて検討していく。

サンエイ工業は2009年に単独で「アグリテックニカ」に出展し、欧州

企業との契約にもつながった。エフ・イーは台湾や韓国に製品を輸出するなど、欧州やアジアでの市場開拓に力を入れる動きが広がっている。

農機メーカーが海外進出を目指す背景には、販売先の農家の戸数減少がある。高齢化や後継者不足などにより離農が進み、道内の農家戸数は1

98.5年に10万戸あったが、10年は4万4千戸にまで減った。

また価格が割高でも、高性能を武器に欧州の農機メーカーが道内の農家向けに販売を強化していることも影響している。

5社は北海道経済産業局の補助金を活用し、2年後をめどに海外への本格進出を目指す。

秋サケ定置網漁 4日遅れで解禁

道内の今季の秋サケ定置網漁は例年より4日遅れの28日にスタートする。例年道内一番早く漁が始まるえりも(根室市)では、来遊するサケが約380万匹と昨年比14%減少する見通しのため、解禁日を遅らせる。

道内の秋サケ定置網漁は、日本海やオホーツク海が8月末から9月上旬にかけて始まるのに対し、えりも(根室市)では、通常は24日に解禁とな

る。ただ今年はいりも(根室市)でも巨高と上勝が28日、根室と釧路が9月1日に延期する。操業日を短縮することで「稚魚を育てるための親魚の確保に役立つ」と(根室漁協)。

道総研によります。内水面水産試験場によると道内全体の今年の秋サケ来遊量は前年比3%増の4100万匹の見通し。

仏パティシエ監修スイーツ店 ウィンザーホテル洞爺

洞爺リゾート&スパ(洞爺湖町)は9月、仏有名パティシエのミッシェル・ブラン氏が監修するスイーツ店を館内で開業する。これまで自社でメニュー開発していたが、ブラン氏考案のスイーツの

バルク戦略港湾 釧路で講演会 市民ら約320人参加

国が重点整備する「国際バルク戦略港湾」に選ばれた釧路港(釧路市)が果たす役割や取り組むべき課題について考える「市民と考える国際バルク戦略港湾フォーラム」が17日、釧路市内で開かれた。港湾関係者、市民ら約320人が集まった。

の前々年と比べると利用台数は3%増。前々年は休日上限1000円など割引制度が充実していたが、NEXCO東日本は「無料化実験と高還元が定着したことで、区間延伸などが要因」としている。

釧路10万世帯に試験放送を開始 テレビ北海道

テレビ北海道(札幌市)は17日、釧路市を中心とする約10万世帯の釧路エリアで試験電波による放送を始めた。問題ないこと

提供で女性客を囲み込む狙いだ。当面はケーキとマカロンを中心に販売し、順次チョコレートなどのメニューを増やす。

今回開業する「ミッシェル・ブラン」はロビー付近にできる。ケーキなどを持ち帰り向けに販売するほか、ロビーラウンジでも提供する。価格はケーキ1個が500円以上になる見通し。

た。「ひがし北海道から日本の発展的未來へ」と題し基調講演した山崎・釧路公立大准教授は「十勝など釧路以外の地域との連携が急務」と話し、農林水産業と食品製造業との連携強化も指摘した。釧路港は5月末、飼料用トウモロコシなど穀物のほか積み荷物の拠点として、バルク戦略港湾の一つに選ばれた。

とが確認されれば26日午前0時から本放送を始める。テレビ北海道はこの後、10月半ばは帯広、10月上旬に網走、北見で試験電波による放送を始める。これらの道東展開で新たに約36万世帯が加わり、道内の世帯カバー率は現在の8割程度から約94%になる見通し。道東展開はテレビ北海道の長年の課題だった。7月の地デジ完全移行で投資が一巡し、放送エリア拡大に踏み切った。

た上藤市長は、経済再生とも決まった。